科　　目	化学基礎（２単位）	単　位　数	２　単位	年間授業時間	７０　時間
対象学年・（組）	3年1～8組	使用教科書（出版社）	化学基礎 改訂　　第一学習社		
	自由選択	副　教　材　等	化学図解（数研）、標準セミナー（第一）、ビーライン（第一）、 ケミ探＋化学基礎（啓林館）、共通テスト対策直前演習化学基礎（ラーンズ）		

教　科　担　当　者	

	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標【年間授業計画】		指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標【年間授業計画】		指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標【年間授業計画】
4月	小テスト（1学年の全範囲）	小テストを行い、現在の理解度をはかる。	9月	入試問題実践演習	様ざまな入試問題を中心に演習や小テストを行い実践力を養う。	1月		
	第１章物質の構成 第１節　物質の成分と構成元素 １．物質の成分２．物質の構成元素	混合物を純物質に分離する方法、同素体、物質の三態、構成粒子の熱運動や絶対温度などを入試問題を利用して実践力を養う。						
	第２節　原子の構造と元素の周期表 1.原子の構造 ２．元素の相互関係	原子の構造、同位体・放射性同位体、さらに、元素の周期律、周期表、原子の電子配置や化学結合に関与する価電子などを入試問題を利用して学習する。						
	第３節　物質と化学結合 １．イオンとイオン結合	イオンの生成とエネルギーの関係を理解させる。イオン間に生じるイオン結合やイオン結晶を表す組成式、及びイオン結晶の性質や利用など入試問題を利用して身につける。						
5月	２．分子と共有結合 ３．金属と金属結合 ４．結晶の比較	分子結晶、共有結合結晶、金属結晶を結合の概念から理解し、各結晶の特徴に結びつけられるよう、入試問題から実践的に理解させる。	10月	入試問題実践演習	様ざまな入試問題を中心に演習や小テストを行い実践力を養う。	2月		
	第２章　物質の変化 第１節　物質量と化学反応式 １．原子量分子量と式量２．物質量	相対質量と原子量の関係を再確認し、存在比などに意識させる。物質量を粒子の概念からとらえさせ、入試問題を通して実践力を養う。		中間テスト				
	中間テスト							
6月	３．溶解と濃度	物質の溶解が、溶媒と溶質の極性の有無に関係することを再確認し、溶液の濃度の表し方として質量パーセント濃度やモル濃度の求め方を入試問題を再確認させる。	11月	入試問題実践演習	様ざまな入試問題を中心に演習や小テストを行い実践力を養う。	3月		
	５．化学変化と化学の基本法則	化学反応式の係数比は物質量の比と等しいことを用いて、様々な反応における、物質の質量や気体の体積の関係を入試問題を利用して導かせる。						
	第２節　酸と塩基の反応　１．酸と塩基２．水素イオンの濃度	酸と塩基の２つの定義、電離度による強弱や数的処理、ｐHへの応用、指示薬との関係などを入試問題を利用して再度理解させる。						
	３．中和と塩 ４．中和滴定	塩の分類とその性質、さらに中和滴定との関連を理解させ、実験や図、グラフなどと関連付けて考えられるように入試問題を利用して理解させる。						
	第３節　酸化還元反応 １．酸化と還元 ２．酸化剤と還元剤の反応	酸化還元反応、酸化剤・還元剤の定義、酸化剤・還元剤の濃度決定を入試問題を利用して実践的に身につける。						
7月	３．金属のイオン化傾向 ４．酸化還元反応の利用	イオン化傾向を利用して、起こる化学反応や金属の反応性、トタンなどのしくみを再確認し入試問題に取り組ませる。金属の製錬、電池が酸化還元であることを再確認し入試問題に取り組ませる。	12月	期末テスト				
	期末テスト							

【評価の観点・方法】

１．１，２学期の小テスト、定期考査の得点を中心に評価する。

２．課題、提出物、小テスト、授業への取り組みなど総合的に判断する。